

## ＜その他の事業実績＞

### 「食」と「農」を協働で育み、健康で豊かに暮らせるまち・おごおり

平成27～30年度の食料・農業・農村に係る事業実績のカテゴリーに当てはまらない実績を挙げていきます。

小郡市の食料や農業、農村の現在の姿について、市民と真摯に議論して、模索して、なんらかの形にしていこうという試みは、標記の小郡市食料・農業・農村基本計画に掲げる「目指す食料・農業・農村の姿」を、まちづくりの観点から論じた事業だったのではないかと考えます。

すぐに本市の食料・農業・農村の姿を変えるほどの即効性はないものの、こうした動きが次世代につながっていくことで、少しでも現状を変える原動力になるのではないかと考えます。

実績:27・29

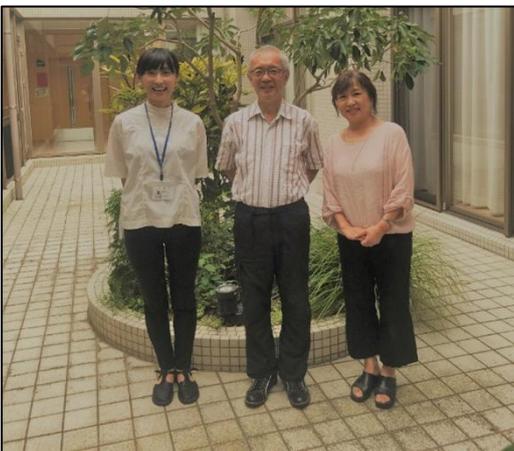
○「小郡魅力化計画」に参加し、まちづくりについて議論した

#### ○小郡魅力化計画

一人ひとりが地域（まち）に対して抱く「特別な思い」を他者と分かち合い、食い違う思いを議論し合い、相互理解を深めた上で地域の持続的発展へとつなげていくための計画でありそのための行為が「魅力化計画」です。

平成27年度には、まちの特産品をつくっていくきっかけとして、小郡市で生産されている大豆（フクユタカ）を活用した「きなこ☆ぼうる」をつくってみたいという研究チームに情報提供などの協力をしています。

29年度は地域おこし協力隊が参加し、「家庭菜園」、「農家民泊」、「農業女子」、「買い物弱者」、「軽トラ市」など様々なことを話し合っています。形となったのは「軽トラ市」ですが、農業女子でチームを結成し、農産物の小郡ブランド構築に向けた商品開発構想も提案されています（令和元年度商品化）。また、農家に一週間宿泊して農業体験をするとともに外国人技能実習生との異文化交流も図るという案には農家からの賛同も得られるなど、実現化に向けて少しずつ動き出しているような計画もあるようです。



**プロジェクトテーマ：食のストーリーとストリート**  
**チーム名：まんぶくいもむし**

#### 【コンセプト】

○顔が見える販売の仕組み作り

「小郡独自の安心」のカタチを作る

#### 【活動目的】

○買い物弱者の手助け：

買い物弱者の増加が問題になってきている

## ＜その他の事業実績＞

- 小郡の農の発信：小郡市の美味しい農作物を直接届けたい
- 小郡の農の発展：農業が盛んなわりに特産品、ブランドが少ない

### 【プロジェクト内容】

#### ① 顔が見える販売の仕組み作り

直販が少なく、規格外の野菜が廃棄されている。大規模に家庭菜園をしている人用の新たな販売の仕組みも必要。買い物弱者の問題とつなげられないか

#### ② 小郡ブランドの構築

小郡農業女子を立ち上げ、新しい小郡ブランドを作る活動。他の地域にない農作物や加工品を計画中

#### ③ 子ども農園

未利用畑の一部を「子ども農園」として活用することを構想中。子どもたちが作った野菜を加工、販売まで体験してもらうワークショップを計画中。

3つとも、顔が見える販売の仕組み作りと「小郡独自の安心」のカタチを作るというコンセプトは共通しており、プラットフォーム 発信の場として軽トラ市を基盤に活動の幅を広げる。



実績:30～

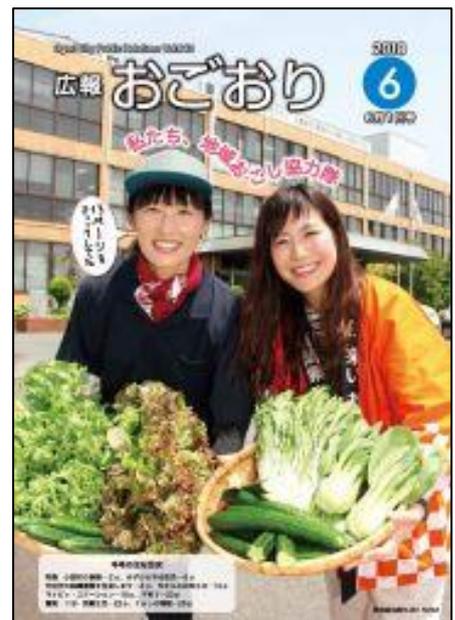
○地域おこし協力隊を採用し、地域活性化に向けた取組を進めた。

### ○地域おこし協力隊

都市部の人材を1～3年間地方に受け入れ、地域協力活動を担ってもらいながら、将来的には地域での定住化を図る国の事業。市外からの新しい感性で小郡の魅力を発見してもらうとともに、磨き上げてもらうことで小郡を盛り上げ、多くの人に小郡を好きになってもらいたいとの思いから、30年度に2名の協力隊員を任用しました。

農業関係では「農産物特産品プランナー」として、小郡の特産品を発掘、開発するための活動や、そうした農産物や加工商品を小郡ブランドとして多くの人に知ってもらうためのPR活動に取り組んでもらいました。

多くの農業者と会い、まちおこしの原動力となりうる市内の多くの方々と会って人脈を広げる一方、買い物弱者に関する会議や農業女子ネットワークの立ち上げ、小郡魅力



## ＜その他の事業実績＞

化計画における提案など、行政ではなかなか行き届かない分野において能力を発揮していただきました。また、果樹農家と洋菓子店を結び付けて、規格外農産物の活用の道を開く道筋をつけていただきました。